柔軟発想で義援金に

送れない衣類を換金

あす横浜で販売

とどけ 被災地へ

寄せられた衣類を換金して被災地支援に回す取り組みを、県内の中小企業経営者グループが始める。もともと支援物資として集めたが、ガソリン不足などで届けられず断念した。中小企業経営者ならではの柔軟な発想で、新しい復興支援モデルにしたい考えだ。

約680社で組織する県中小企業家同友会（横浜市西区）。水や燃料、衛生用品などを集めて被災地に届ける活動に取り組んでいる。

衣類も支援物資として集め始めた。窓口になったIT関連企業「ともクリエーションズ」（横浜市中区）の渡辺桃伯子代表が地域情報サイト「ヨコハマNOW」などでも協力を呼び掛けると、段ボール箱約200個分が数日間で集まった。

遠くは熊本県や広島県からも。Tシャツ店がサンプルを提供してくれたり、軽トラックで2回も運んでくれたり。秋田県出身で東北地方には親戚も多くいる渡辺さんは「善意が心に染みた」。

ボランティアの協力も得て100箱分の仕分けを終えたが、連携する新潟県の団体が用意した倉庫は満杯に。ガソリン不足も追い打ちをかけた。

支援物資には適さない古着もあったが、集まった善意を何とか形にしようと換金を思いついた。ちょうど大口通商店街（横浜市神奈川区）が27日に震災支援チャリティーイベントを開くことを知り、参加することに。義援金は日本赤十字社を通じ被災地に寄付することも決めた。

「みんなの気持ちを心のリレーでつなげたい。大勢の人が集まり商店街の活性化にもなればうれしい」と渡辺さん。ヨコハマNOWの辰巳隆昭編集長も「知恵を出し、横浜発の復興支援モデルをつくりたい」と話す。

当日は落語家の笑福亭笑助さんが司会を務める。バルーンアートや大道芸などの催しのほか、商店街が用意したコメの販売なども行われる。午後3～6時。（岡本 晶子）

「とどけ 被災地へ」では被災者に寄せる人々の思いを描いていきます。被災地に届けたい思い、発信したい情報を募集します。ファクス＝045（227）0150、または、ホームページ「カナロコ」（http://www.kanaloco.jp/）からメールフォームでお寄せください。

被災地に送るために全国から寄せられた衣類。ボランティアが仕分けを行った ＝横浜市中区